

宇都宮大学大学院国際学研究科博士後期課程

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

市民が社会のあり方について自由に議論し、合意を形成して広く社会に意思表示し、公的な制度や政策決定に影響を及ぼす社会空間は、「公共圏」とよばれます。近年、国家間の利害対立のために解決できない南北問題などグローバルな課題を、国家の枠を超えて取り組む動きが顕著になってきました。この運動の担い手は国家を超えて活動する多様な文化をもつ市民・市民組織です。

本研究科は、これら市民・市民組織が活動する公共圏を「多文化公共圏」と規定します。多文化公共圏では、市民・市民組織が国家、民族、宗教、言語などの違いを超える自由なコミュニケーションを通じて合意を形成し、トランスナショナルな課題の解決に取り組んでおり、以下のような能力、資質、意欲をもつ入学者を求めるためのアドミッションポリシーを策定しています。

- 国家・文化の境界を越えるトランスナショナルな課題について、関係者の多様な知識や意見をひき出し、コンセンサスを形成して、解決しようとする人
- グローバル・ガバナンス、国際協力、多文化交流に関わる、国家・文化の境界を越えるトランスナショナルな課題を把握し、研究対象地域に関する高度の理解や専門知識を持って研究したい人
- 国家・文化の境界を越えるトランスナショナルな課題の研究を、多分野の研究者との共同研究によって遂行し、その成果を市民組織、国際機関、政府・自治体等の政策決定に活用したいと考える人

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育目標達成のために、以下の特色ある教育課程編成・実施の方針を定め、多文化公共圏形成に貢献できる人材育成を図っています。

- グローバル・ガバナンス、国際協力、多文化交流という観点の異なる分野から合計3名の指導教員が指導を担当することで、学際的総合教育を推進しています。
- 教員・院生間での学際的討論と両者の協同による多文化的研究環境を構築しています。
- 多元的な情報収集能力と調査・分析能力を育成するために、「国際学基礎演習」、「国際学リサーチ演習」、「国際学臨地研究」を体系的に配置することで、インターンシップやフィールドワークを強く推奨しています。
- 夜間、土日の開講、テレビ電話会議システムによる参加など、社会人に配慮した柔軟な教育方法を採用しています。
- 学位論文計画書、第一次発表、第二次発表、学会誌への論文投稿・掲載、予備論文審査を経て3年間で博士論文を完成させるために、3年一貫の研究プロセス管理を行っています。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科では、指導の高度専門職業人として要請される以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得したことに加え、博士論文を提出し、論文の審査及び最終試験に合格した者に対して「博士（国際学）」の学位を授与します。

- 多文化公共圏の形成にかかわる制度や政策を企画立案する能力
- 国家・民族・宗教・言語の違いを超えたコミュニケーション能力
- トランスナショナルな諸問題に対する学際的アプローチによる多元的課題設定・問題解決能力
- 市民・市民組織の活性化に貢献できる能力